

研究成果の紹介

国立公園の 利用者意識に関する研究

公益財団法人日本交通公社 観光調査部研究員

五木田 玲子

本研究では、国立公園のより良い利用のあり方について検討するため、知床、奥日光、上高地、立山を訪れた観光客を対象としてアンケート調査を実施し、各公園の利用実態・意識を他公園と比較可能な形で把握した。

調査概要

調査対象地 (調査地点)	<ul style="list-style-type: none"> ・知床国立公園知床地域(知床五湖高架木道出入口) ・日光国立公園奥日光地域(華厳の滝、赤沼駐車場(戦場ヶ原自然研究路入り口)、三本松駐車場(戦場ヶ原展望台)) ・中部山岳国立公園上高地地域(上高地バスターミナル) ・中部山岳国立公園立山地域(室堂ターミナル) <small>*調査対象地の選択にあたっては、利用者の属性・行動の多様性、調査対象地の資源の多様性、エリア設定の容易さを考慮。</small>
調査方法	調査員による調査票の手渡し配布、郵送による回収
調査項目	公園利用者の基本属性、旅行内容、利用者意識など(約30問)
調査期間	2011年7～8月、9～10月の2期
調査規模	配布:18,800件、回収:6,006件、回収率:31.9%

各公園の利用者属性・ 利用形態・利用者意識

知床

他公園に比べて三十～四十代が多く、子供連れが多い。集客圏が広く、初来訪者が多いことも特徴である。周辺での宿泊率は高いが、自然散策時間は短い。活動タイプは、「観光型(食事、買い物、温泉、観光施設見学等を中心とした活動)」が八割を占め、「自然型(ハイキング、植物・動物観察等を中心とした活動)」は二割にとどまる。

訪問動機は「原生的な自然にふれたい」が八割を占め、他地域と比べてより大きな動機となっている。活動については「ガイドツアー参加(有料)」の評価が最も高いことが特徴。不満は「特になかった」という回答が四割を占めるものの、自由記述では「駐車場の混雑・不足」に関する意見が複数挙げられた。

奥日光

九割が関東からの観光客ということもあり、日帰りが多く、五回目以上のハードリピーターが七割を占める特徴的な構成である。活動タイプは、「観光型」の比率が六割を占め、「自然型」

動機 (複数回答)	活動評価 (大変満足割合)	不満 (複数回答)	総合満足 (大変満足割合)	感動 (大変感動割合)	効用(自分の人生を豊かにするか) (大変そう思う割合)
原生的な自然にふれたい85.1% 美しいものを見たい83.8% 仲間や家族との時間を楽しみたい59.7%	ガイドツアー参加(有料)52.5% 景色を見る49.0% 登山41.9%	特になかった46.1% 他の利用者のマナー不足11.3% 案内・説明板のわかりづらさ11.1%	26.9% (晴れのみ33.8%)	27.1% (晴れのみ34.8%)	22.6% (晴れのみ26.4%)
美しいものを見たい76.9% 原生的な自然にふれたい68.1% 仲間や家族との時間を楽しみたい62.2%	景色を見る46.7% ハイキング40.9% 温泉39.7%	特になかった39.2% 他の利用者のマナー不足14.7% 施設の不衛生14.7%	23.0% (晴れのみ29.7%)	20.2% (晴れのみ25.5%)	21.1% (晴れのみ24.2%)
美しいものを見たい87.5% 原生的な自然にふれたい80.6% 仲間や家族との時間を楽しみたい58.8%	景色を見る53.9% ハイキング42.8% 登山41.7%	特になかった33.2% 歩道・通路の混雑23.7% 他の利用者のマナー不足18.9%	30.6% (晴れのみ40.7%)	28.9% (晴れのみ38.7%)	33.1% (晴れのみ37.9%)
美しいものを見たい87.5% 原生的な自然にふれたい72.3% 仲間や家族との時間を楽しみたい59.3%	景色を見る47.5% 参拝44.7% 登山40.8%	特になかった41.9% 他の利用者のマナー不足16.7% 歩道・通路の混雑16.3%	26.9% (晴れのみ40.3%)	28.9% (晴れのみ41.3%)	27.5% (晴れのみ32.8%)

とした活動/登山型:登山、キャンプを中心とした活動/観光型:食事、買い物、温泉、観光施設見学等を中心とした活動

表1 各公園の利用者属性、利用形態、利用者意識

	性別	年代	発地	来訪回数	同行者	調査地点周辺での滞在種別*1	自然散歩時間	活動タイプ比率*2	訪問場所(複数回答)
知床(N=414)	男性49.1% 女性50.9%	～20代 8.8% 30～40代 38.2% 50代 24.3% 60代～ 28.7%	関東35.5% 道内35.0% 近畿7.8% (3地域計87.3%)	初来訪者52.5% リピーター47.5% (5回目以上10.2%)	夫婦旅行36.2% 子供連れ家族旅行21.4% 大人の家族旅行13.8% (3タイプ計71.4%)	日帰り32.8% 宿泊67.2%	～2時間 55.6% 2～4時間 26.6% 4時間～ 17.8%	自然型2 観光型8	知床峠60.0% 道の駅うしろ・シリエトク52.5% 知床五湖(高架木道のみ 散策) 51.8%
奥日光(N=2,225)	男性46.4% 女性53.6%	～20代 5.1% 30～40代 21.5% 50代 22.6% 60代～ 50.9%	関東88.1% 東北3.3% 東海2.7% (3地域計94.1%)	初来訪者5.6% リピーター94.4% (5回目以上66.9%)	夫婦旅行43.6% 子供連れ家族旅行16.1% 大人の家族旅行16.1% (3タイプ計75.8%)	日帰り70.1% 宿泊29.9%	～2時間 39.4% 2～4時間 34.1% 4時間～ 26.5%	自然型4 観光型6	戦場ヶ原70.8% 中禅寺湖65.8% 竜頭の滝57.3%
上高地(N=1,842)	男性42.6% 女性57.4%	～20代 6.2% 30～40代 25.6% 50代 22.7% 60代～ 45.5%	関東43.0% 近畿19.9% 東海18.6% (3地域計81.5%)	初来訪者27.9% リピーター72.1% (5回目以上33.3%)	夫婦旅行31.3% 友人旅行18.1% 大人の家族旅行16.0% (3タイプ計65.4%)	日帰り65.9% 宿泊34.1%	～2時間 26.2% 2～4時間 32.7% 4時間～ 41.2%	自然型6 登山型1 観光型3	河童橋91.6% 大正池62.9% 田代池・田代湿原48.8%
立山(N=1,525)	男性41.8% 女性58.2%	～20代 5.5% 30～40代 22.8% 50代 21.8% 60代～ 49.8%	関東33.1% 近畿18.7% 東海14.0% (3地域計65.8%)	初来訪者40.8% リピーター59.2% (5回目以上18.8%)	夫婦旅行33.3% 友人旅行21.1% 大人の家族旅行13.8% (3タイプ計68.2%)	日帰り65.7% 宿泊34.3%	～2時間 44.2% 2～4時間 22.6% 4時間～ 33.2%	自然型5 登山型1 観光型4	室堂98.2% みくりが池72.3% 黒部ダム71.3%

*1 調査地点周辺 知床:ウトロ、岩尾別、羅臼/奥日光:日光湯元温泉、中禅寺湖畔/上高地:上高地内(山小屋含む)/立山:アルペンルート内(山小屋含む)

*2 活動タイプ 公園内で行った活動の対応分析より得た因子得点を利用し、クラスター分析によって公園利用者を以下の3タイプに分類した。自然型:ハイキング、植物・動物観察等を中心

の四割をやや上回る。

活動評価の上位に、四地域の中で唯一「温泉」が含まれた。不満については、四割が「特になかった」ものの、自由記述では「施設の不衛生(トイレ)」を不満として挙げる声が多数見られた。なお、奥日光は調査地点を三方所設けており、

地点ごとに特徴的な結果が得られた。華厳の滝を訪れる人の多くが日光山内にも立ち寄るが、戦場ヶ原まで足を延ばす人は半数に至らない。一方、戦場ヶ原自然研究路入り口に位置する赤沼を訪れる人は、小田代原や戦場ヶ原を中心に

回り、華厳の滝や日光山内にも立ち寄る人は三割弱にとどまった。各地点での大変満足割合は、華厳の滝一四・六%、赤沼二九・七%、三本松二二・四%であり、赤沼を訪れた人、つまり、戦場ヶ原や小田代原の自然に触れながら散歩する人は、他地点に比べてより満足している。

上高地

夫婦旅行が最も多い客層ではあるが、友人旅行も多いのが特徴。添乗員付き旅行が三割を占める。上高地内での宿泊率は三割にとどまるが、自然散歩時間は長い。活動タイプは、四地域で最も「自然型」の比率が高く六割を占め、「登山型」一割、「観光型」三割であった。

天候が晴れの時のみに限った場合、総合満足、効用ともに四地域の中で最も高い評価とな

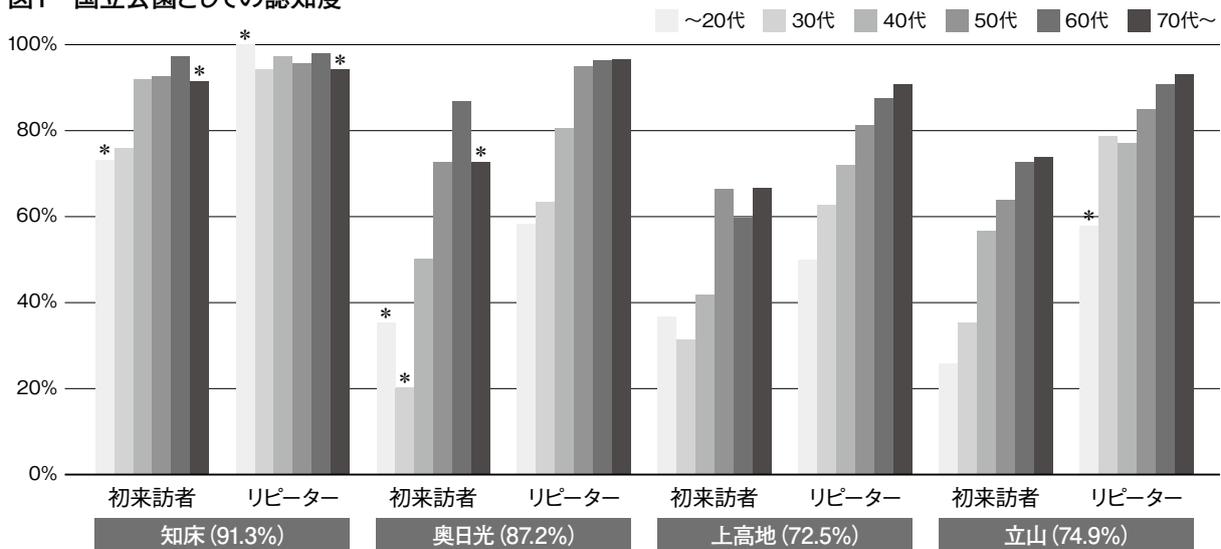
った。なお、満足、感動は、晴れると評価が高まり、雨が降ると著しく評価が下がるが、効用は天気の影響を受けにくい。訪問動機としては、「美しいのを見たい」「原生的な自然にふれたい」が八割を超える。活動評価については、四地域の中で最も「景色を見る」に対する評価が高く、大変満足割合が五割を超える。不満は、四地域の中で「特になかった」の比率が最も低く、「歩道・通路の混雑」や「他の利用者のマナー不足」に対する意見が目立った。

立山

山岳公園ということもあり、利用者属性・形態については上高地と似た構成である。ただし、自然散歩時間は上高地と異なり二時間未満と短い人が多く、その一方で、長い人も多い。活動タイプは、「自然型」五割、「登山型」一割、「観光型」四割であった。

天候を晴れのみに限った場合、四地域の中で感動の度合いが最も高いのが立山であった。活動評価については、「参拝」が上位を占めており、他地域には見られない特徴的な結果となった。これは「雄山登山」「雄山神社参拝」と捉えているためと考えられる。不満については、「他の利用者のマナー不足」「歩道・通路の混雑」の他、自由記入では「団体客・ガイドツアーの存在」について不満の声が多く挙げられた。

図1 国立公園としての認知度



*回答数30未満のため読み取りには注意が必要

国立公園としての認知度

次に、国立公園としての認知度を見ると、「知っている」という回答は七九・九%、初来訪者に絞ると六〇・一%であった。これは、国立公園を訪れている人に対して行った調査であること、さらに、今回の調査対象地はいずれも国立公園の中でもさらに日本を代表する公園であることを考えると、必ずしも高い数字とは言えない。認知度を大きく左右するものとして、まず年齢が想定されるが、三十代以下の認知度は六割を下回っており、さらに三十代以下の初来訪者に絞ると四割を下回る。このように、若年層ほどその観光地を国立公園として認知していないということが明らかになった。

図1は、年齢に加え、地域、来訪経験別に認知度を示したものである。知床は九一・三%と年齢・来訪経験にかかわらず国立公園としての認知度が高い地域であるのに対し、奥日光は認知度八七・二%と高いものの、初来訪者に限ると著しく低下する。上高地、立山はともに認知度は七割強であり、二十~三十代の初来訪者は四割未満となった。

一方、国立公園であることが旅行先を選ぶ理由のひとつであったと回答した人は三五割、年別に見ると二十代の比率が四五割と高くなっ

ている。若者は、国立公園として認知しさえすれば、つまり、国立公園としての魅力が伝わりさえすれば、むしろ他の世代よりも積極的に国立公園を訪れる傾向が強いと言える。

国立公園の相対的位置付けから見えてくるもの

これまで国内の複数の公園について統一かつ継続的な調査が実施されたことはなく、対処すべき課題が発生した際に各公園で独自に調査票を設計して実施していることが多い。しかし、多くの公園・地域で統一した調査が実施されるようになれば、自地域の特性を他の地域や過去の状況と比較し、その相対的な位置付けを明らかにすることが可能となる。

また、利用者属性、利用形態および利用者意識は、各公園・各地域によって大きく異なる。今、自分たちの公園・地域にはどういう人が来ているのかという相対的な位置付けを知ることが、どういう人に来てほしいのか、どういう公園・地域になりたいのか、という方向性を検討する上で欠かせない。そのため、地域ごとに利用者データを的確に収集することが非常に重要になってくる。個性を生かした魅力ある公園・地域をつくるために、統一的な調査の実施が望まれる。

(こきた れいこ)